

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problems Mailbox.**

② 公開特許公報(A) 平4-176460

S1nt. Cl. 3

A 61 G	7/05
A 47 G	9/02
A 61 F	13/15
	13/54
	13/66

識別記号

号 厅内整理番号  
P 6908-3K

④公開 平成4年(1992)6月24日

9163-4C A 61 G 7/04  
8118-3B A 41 B 13/02  
8118-3B  
8118-3B 13/08

E.P.H.

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 9 頁)

## ②発明の名称 床づれ防止の紙布加工品

②特 順 平2-306634

出題 平2(1990)11月13日

②発明者 田中 友爾 大阪府豊中市宝山町19番8号

⑦出 頤 人 田 中 友 爾 大阪府豊中市宝山町19番8号

明細書

八葉明，名輝

### 麻雀防上，或有解而

2) 雜誌讀來，範圍

後文記載の如く、布又は紙、皮革紙やプラスチック製から成る、20ミリ×20ミリの板や、白紙等の加工した平板等に、更に加工して作、たオシメカバー、布紙や皮革混合紙、フィルム等、ハトムギ茶や、タブニン又は藍茶等を着色して、バニリン、桂皮酸アルdehyド、ベンツアルdehyド、アレゲニド類溶液噴射して、花園化して石、加工石、紙、フィルムと別に、藍染めた、布紙、フィルム面に、有機酸に溶解して、マクン、オトベ液と化、接着剤と混合して塗布乾燥し、より表面に生菌片や、もつとも粉不や生株を熱湯に浸漬して、差取る時、得られたセラシン、セラシン、アルカリミン酸、アスパラギン酸含有、温湯溶液を噴霧又は、散布して、皮膜を作り、この布紙やフィルム上、乾燥後、オシメカバー、白紙等に、多層合して石、オシメカバー、白紙等に

理論上，積合性癰丘症，老人也，同病人也，幼兒，  
積合人也，一起，易。底部，皮膚障害，下了床  
之後，中防下了臺玉，稍微上了床，一本防上行  
積合而。

3) 発明の詳細な説明  
ニラ発明は、生薑の繭虫が集作、3.7.28号  
提出する時に、3.7.21イギリス・宣傳細工、固  
(接着)3.7.セッショニセシングルチーン等  
アスパラガス般等、アリ、酸と蛋白質酵解  
蛋白剝離し、ニセコシメカバー内面ヲ不~~シ~~  
布紙やフィルム面に、ニラ生薑の殻を切断し  
水に弱く浸潤後軟化したニラを、ロール等圧迫  
して、皮剥し及、生薑殻を切断して、断片加工して  
は更に粉碎残に掛けて、粉末化しておき、又  
入は、低温乾燥して、前記布紙、71ルム面に、その  
塗布した。在毒性接着剤膜面に、塗着又は散布し  
て接着せしめ、乾燥した布紙、71ルムは、藍染め  
した紙布や、ハトムゼ茶、ナスニン茹苗茶等、塗  
着後して紙布、フィルムを重ねて、オシメとして  
加工し更にニセコシメカバーに組入ん。

スレッカーパー、吸煙割合、水た穀合紙、イン  
スカーパー加工品やパンツ、19面やタオル作  
無地布、走車幅、走車輪添加、7'ラジオツクライ  
ムセカリシン波、金手移動、セレクト、子爵船、  
空港セレクト、車王研磨ヒト子皮膚交換子防  
弾、布防ツイル、床ガード、防化工品、ガラ  
ス、内容が所。

一報、寝たきり老人や病人の、大勢が感染する、  
7月3日、床ずれによる、皮膚障害の、局部と発生し、  
接触する、皮膚面に、生じ易く、多くの患者が、安眠  
が、困難となりました。之に改善方法が、要水洗工  
作法。多く、要因は、空気上の、流通接触の  
局部皮膚面で、発生し、常に湿り気があり、毛孔の  
排泄や、排尿による、汚物が、密着し易く、細  
菌負担細菌の繁殖が盛んとなる。今解剖検査の  
結果によると、皮膚障害によると、床ずれ現象已  
下すから、公知の病院で使用の布地オレンジ色  
で、予防の困難性を考慮して、酸化亜鉛粉を添加し  
て、併用して、局部に散布して、脱水乾燥と抗菌作  
用の同时に、床ずれを防ぐ事に加長、窮屈な

清心日本床の水を解消する事で、この理由は  
想時間：程度と示す排便、排便の行なわれた為  
に床の消毒管理が行な本題一章である。  
又、幼児用の瓶水の多くは、使用之後、瓶水を  
つたる二、三のオムツの構造上、床鐵綱や鐵  
綱等で、UV化した紙玉皮膚：9. 接触面に位  
置する、生の背面：不”アクリル膜塗布”  
二、ルアル二、ルアル、含有する薄葉紙玉接  
触面に、種管体液：不”アクリル紙E組合”  
で、二、ルアル、使用之中二、ルアル、この吸水性、高  
不”アクリル膜塗布”二、ルアル二、ルアル  
等、共管合物質、吸水と同時に、微生物二、ルアル  
となり、接觸面の多孔質面と接觸し通気性を  
阻害して、更に、増殖性面、繁殖を促進し、尿管  
炎、子宮炎、阻害する事により、不”アクリル紙E”  
の、吸  
收前、粉塵大、肺：人、肺、肺陽室、不”アクリル  
紙E”、尿管、不”アクリル紙E”、尿管、不”アクリル  
紙E”、出来、不”アクリル紙E”、尿管、不”アクリル  
紙E”、又、一般のオムツ布地は、吸水性、溼度を行な  
う、不”アクリル紙E”、量的制約があり、又、耐

## 三、結果及得失報告

一般の生率は、70%のハイドロインと30%のエタシンより成る。强度3.6~8.1kg/mm<sup>2</sup>、 $\sigma' = 1.12$ 、伸び率12.2~23%、比重1.139~1.151と速硬である。この原率は、120℃の熱处理後、オートレーバー水浴加熱し、140℃で15分間熱して加压3.8kg/cm<sup>2</sup>、セリシンは溶解して原の半分、この液を用ひ、7~8倍のアルミニウム混じし、数時間放置すると、白色沈殿物として回復する。これがE.アルミニウムが精製して得られる。前記溶解水液を減圧濃縮して冷却して沈殿物を下す。これがE.名品である。硫酸に溶解後して之作る。

スニウセナレーブ、ブロイン、ハム、<sup>蛋白質</sup>  
グリーン、アラーン、クロエンが少くなく、  
タニ、ブルタミン酸、アスパラギン酸が多い。  
ニウセナレンを安価に作りには、生木、<sup>天然物</sup>  
木片等に、生木を熱湯中で加熱し、セリシンを除  
して、熟化したブロイン等と作り、必ず  
は液流の回数によつて得らうとする。

酵素が活性化する要素は、主として酵素の濃度、pH、温度、阻害剤の種類などである。また、酵素の活性度は、酵素の種類によって異なる。たとえば、アミラーゼの活性度は、澱粉の種類によって異なる。

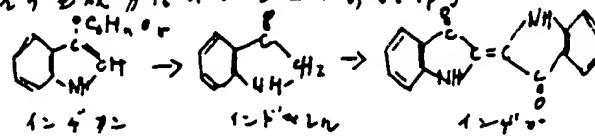
ス.ニウセウシンを、フオルツィンヤ、フリード、  
ミクバン、タンニン酸を、浸漬し、蘇固化しのた  
もので、使用する時の程度は、王爾院スリ、15.15  
%、モル、ベンツアルギド、松脂アルギド、  
パニッソ等、軽く處理したもの、やぶリビニール、  
アルギドに、ヨウ素化アルゴン酸が處理して、  
均一な性質である。

2. メチル、キトサンと有機酸溶液ペーストに  
生菌数約3分離エサ液よりを空布すると皮膚  
部に有効性があり、特に、乳酸に溶解したキト  
サンペーストに溶解したキトサンと本品  
に塗布して水洗してアルカリ性中和した結果  
キトサンと乳酸が溶解したより13.滅菌が充分  
に行はれ耐久性が高くなることが得られた。

天、二つ面の重＝アル＝二酸＝一酸＝カル＝ナ＝  
を塗布した。二つはアリ＝シ＝二酸＝カル＝ナ＝

少くなくばグリフでなく、キトウンによって不溶化され易い。

次に、生菌以外、床下水防として、藍色素が有効である。この藍は、一年生草本種類が多く、徳島で産するもの、即ち有名な藍、葉と幹と原株といふ、インドミシル配種等、インゲカンといふ、紅花とさうの成分ハイレジゴボウである。附了。



二種類”<sup>33</sup>，生產以間花期，葉子採集後水

用丁子核皮酸ナルチビド 体質力弱 黒色 10斤  
ウツル化粧水 1000ml P.P.M. ~ 12 P.  
P.P.M. 上灰 2% 7% ~ 10000 P.P.M.  
10比1、非常濃高。又、7% 水溶性、黄色  
・球菌、微細酵母、12% 25 P.P.M. ~ 3 P.P.M.  
乙原 7% 水溶性、大腸菌 12% ~ 12 P.P.M.  
除菌水 10% 25 P.P.M. 25% ~ 72-1-2-9  
1500 P.P.M. 25% 水溶性、差 5%  
7% 水溶性 12% 25% ~ 12500 P.P.M. 7% 水  
溶性 10% 500 P.P.M. 225 P.P.M. 7% 水溶性  
15% 12% 200 P.P.M. 500 P.P.M. 7% 水溶性。  
7% 水溶性 7% 25 P.P.M. 体質力弱 1000ml  
10% 水溶性 25 P.P.M. 7% 水溶性 125 P.P.M.  
25 P.P.M. 7% 水溶性 10% 25 P.P.M. 145 P.P.M.  
135 P.P.M. 7% 水溶性

实用的还是不，要从一个一个的良品结果

トトランの主薬剤は、力ニ甲羅加よしも、  
然る系ニガ力ニ甲羅は一般ニ、強烈な処理ニ  
脱カルシクルを行ひ、水洗後、アルカリで処理し  
て作られると水溶化して、甲羅の反応性が高くなる。  
實験の方法は鶴糞玉水に洗かして水に浸漬し、  
10% 酒精すれば、自然に脱カルシクルが行はれる  
から、之を水洗しアルカリで洗浄した後、  
乾燥粉碎すれば、トランが得られ、硫酸  
酸ヒの併用は、時間と縮短する。之を酸处理の  
硫酸を併用して、脱カルシクル可と早と、脱カル  
シクルが促進する結果となり、脱臭性があつた。  
この鶴糞、脱臭作用は、一般の干皮の石炭質  
の強處理法より、利用され、之は主薬剤  
蛋白分解酵素によく効果が高く結果が不<sup>良</sup>。  
本發明は、先づ、底層面に接着した、底布面や、ファイバ  
面に下、生菌糞の細片や、主に粉末状の菌糞の下  
に接着剤を塗布し、次に亞硫酸紙を重ねて、脱水  
前段を重ね、オシメ多層構造を組合せた、底  
不織布や、ガルバナ、布等と並べ、加工する時  
底層を、障害物（原木等）、一紙、又紙の底層

以上、従来の生菌数による有効性、外見、菌色基  
ヒト細胞でも抗真菌、殺菌効果、無毒化使用など  
の耐久性などと高め、麻ガムの異因による皮  
膚傷害を改善せしめたものより構成して、丁寧  
に薬心に、それを組合せた、同カバーを作成し  
た。この麻ガムにより改善。老葉上有用天蚕明  
るい耳。

二、登録の実施要領の周知によつて、説明され  
ば次の如くである。

第1回は全蔵(7d)。側面図を示し、全蔵を中心  
環(4d)、カツカツ(2d)、刃削(3d)、蔵出(5d)と取出(6d)、  
9段を交互に示す如く左(7d)、右(8d)の面  
車ローラ(8d)は、シペア(9d)から運転車(10d)  
左起(11d)、スレ(12d)、右起(13d)と同様に引延ば(14d)、スレ  
スレ(15d)に第1回、如く加工したモノと初期形(16d)  
カツカツ(17d)、アシ(18d)、セイ(19d)等(318片)に加工す

3月9日 田代江 5枚 X 7枚 = 35枚  $\times$  50円 = 1750円  
トマト 1kg 1部 7.5円  $\times$  5部 = 37.5円  
合計 35枚 + 37.5円 = 387.5円

次に公知の方法によれば、アセチルセルロースと合成繊維、又は麻繊維と合成繊維を混合して、所定の薄葉紙を作り、必要に応じて、織機等にて、この工程は常法の後を行ふ。又ツリーン印刷機等の形によく印刷の入る、二種合刷(6)(6)と金版(4)と上面(3)前記生織細片(5)(5)をルイで入る。ニンジンの種子を下工せし表面を押え、一定の厚さに加口(3)。この厚さ(3)は、一枚一枚(6)に接着して乾燥機中で乾燥口(1)コンペアして落葉(3)。この落葉は日射乾燥口(3)、若しくはツガリ一般の低温退廻乾燥口(1)でこれより固(3)。乾燥した薄葉紙(1)を木工(9)にて、この生織細片の底部(1)に接着する位置(1)細片(5)が固定した様に使用する。薄葉紙(1)の織紋(2)は基板上(1)にて、又織糸の織紋(2)は、生織(3)。連帶量は全量の1~10%である。

第6回。生薑薄葉紙の背面積合紙(3)は、薑葉の  
積合紙で、49上面の薄葉紙(2)は、C7V  
A2:1段、り不該酸液の外は、全解離率は、100%で  
一回、塗布すれば、少量の減耗率は、アルカリ性  
シナトナニ液は、塗布すれば、103.16%で、酸性液は、  
常温で、不活性シリル酸塗布後、C7V-A2:1  
を重合樹脂が接着され、C7V-A2:1は、  
3.この複合紙を裏ね、両端を接着して8mm  
オシスとして、使用された。第7回は、C7V-A2:1  
と布した後で、不活性オバー間に接着し、膜厚  
ナシ、塗り詰め、パンツを着衣して、使用された。  
第8回は、生薑細片、粉不(5g)を、接着剤で、塗布  
して、裏面に接着され、コーナングするが、この接着  
剤は、リバーカ抗菌性ペレ(6g)が、用いられた。  
491.8.布紙で、49背面は、エリン、ナトアレナ入  
れた、薄葉紙(2)の積層工法、49背面は、薑葉の紙  
(3)が、積層工法、吸水紙(4)の積層工法、その背面  
は、良手筋、入った防水紙(5)が、複合工法で、両端  
を接着した後、が組合工法で、オシスを形成され  
た。49吸水紙(4)は、13.二酸化塩素、50.1倍

テ、抗菌性樹脂の接着剤は強化エボニット。  
パンツ(24)又11固12正面固13木14、又1面15、強化  
エボニット、取扱い可能とする所: 11, 12, 13(4)  
自身の布地にエボニットを、酸、酵素液等に  
さらさず、又12で再使用可、可能である。  
才13固14敷布(F)、正面固15中央部16、生藤粉  
17、18、19、20、酸、酵素液の強化液を塗布セレタエ  
ル、生藤粉(F)15、接着性接着剤(F)16、強化  
敷布した所17、布地(F)18、19、20、P11、酸  
酵素液の強化液の粉吹き後接着エボニット。  
才19抗菌剤、香料19、アーモンド油、使用工丸21、  
5、殺菌性7、11ル(13F)22、19布地(F)23、漆面  
14、防水用15、26、3、エボニット27丸28。  
才21殺菌剤12、酸化銀系、29、ルアーモンド油  
用工丸27丸30。(日本漆油工業会(001-013会員))  
才22セ"ル、7:1、強酸素液は生藤から脱脂エ  
ボニット23等、加熱流水を利用し、ペイント、ト  
ゴンシヤ、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、  
研磨系と分離培養した後、使用工丸専用  
11、脱脂エボニット24等用工丸25丸、金属氧化

100~1000 Pa の第三又之等は、アセト酸  
ガセル化した粉末を分散するに、安定使用可  
3%の出来る。又ニの皮膚炎に打可3.セリシン  
は、炎症面をセリシンで被膜保護し、温化下3.1  
メチオニン硫酸等にドカニ、炎症を修復する。而  
3.7イプロイント酸素の作用万万と、セリシン  
を形成し、之等アミ、酸は炎症固脱の役立、  
促進剤として、出来可3.  
又、酵素も粉碎して酵素分解すると、柔軟性9万  
3.7と、酸、ビヨンシンド得られる。  
多爾酸を粉碎し、120℃の高压ガスートフ  
レーバー水で加熱すると、セリシンが80%の  
割合で抽出され3.0%元の生薬で、シニス  
7イプロイント90%に対し、30%セリシ  
ンを含有して13.1  
ニ9.7イプロイント、粉末にした9.1は化粧品  
9.粉木ヒレミ、使用されるが、セリシンを含有す  
る生薬、粉木は更に、使用が万万事は云々子  
セリシンド、布版への重量は、1~5%含有の如き  
九のアミ、4.圓14.皮膚炎、管玉率を測定した結果

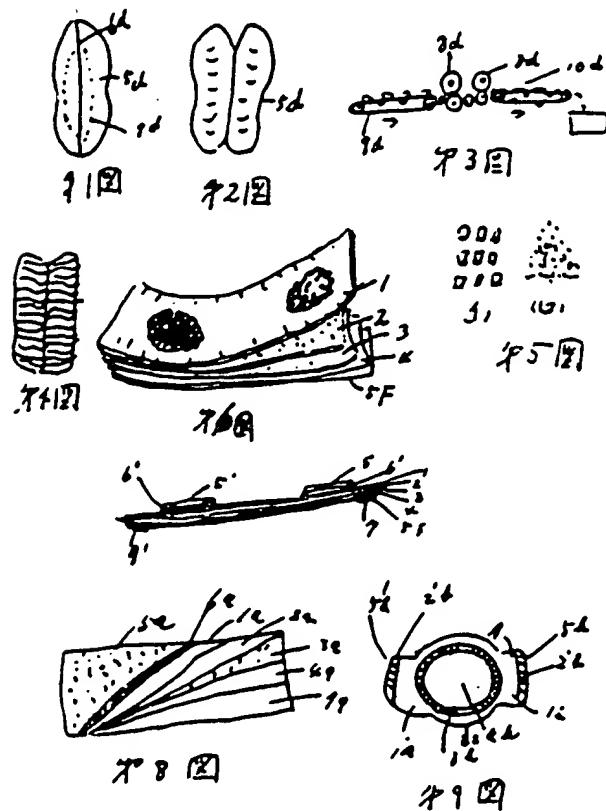
性日本シロハリ菌細片と抗菌性接着剤の混合  
し藍色系の薬局販売品とセシン合漢酸アミ  
カ合化ナヘシゲルヘ高濃度の力、(B)は生菌  
・粉本と藍色系の接着剤の生菌(C)は  
藍色系の、セシンを含む、(D)は一般の糊ナムを  
用いたセシナム等。これら、既成の糊ナムの切児  
の皮膚炎発度式、20人を対照としたところ  
は、生菌細片と市販の糊ナム5%比で5%加減。  
以上よりは、セシンと糊の公知の糊ナム  
で、又スル市販の糊ナムと使用した  
結果、生人や病人の児童多くが、床に丸に  
座り易く、特に、6月から、9月頃は、多く発生する  
ことは、皮膚炎の主な原因であると想ひ、算出  
度の高い、約10%の陰性菌の繁殖は不傳害性  
多<sup>シ</sup>、馬、牛、羊等によつて皮膚炎にならざ  
る事無し。皮膚炎に保護被膜を形成する、セシン  
ナム、生菌、細片や、粉本で、皮膚面に接触せ  
しり、被膜を形成し、ウシ様に、インメルラミネ  
ートして皮膚面と直接接する部位面、位置と  
してスルト面に抗菌性接着剤を塗布せしめ

に利用出来る子の事、セリミニ液やセリシン等  
サン、セリシン液と、布臥心に噴霧する事によつて  
皮膚炎の予防に効果の事、蛋白分解酵素リボ  
ンキシ化酵素、アミノ酸、混入添加物、炎傷瘡の回  
復の役立つ、産業上衛生上有用な聲明である。

1) 図面の簡単な説明  
第1 図は玉蘭の正面図第2 図は、玉蘭の分割した平面図、第3 図は圧延工程図、第4 図は玉蘭、又丸又状は圧延した平板の正面図、第5 図は玉蘭の細片、側面図、第6 図は玉蘭粉末の側面図、第6 図は、床下小予防種層オシク、斜正面図、第7 図は、玉の側面図、第8 図は、玉蘭粉玉筋布生層セシカト種層布紙の正面図第9 図は、故オウツカバーの正面図第10 図は、床下化位置玉木の側面図、第11 図は、パンツ布、正面図、第12 図は、オシメタオルの正面図、第13 図は靴布の正面図、第14 図は研粒

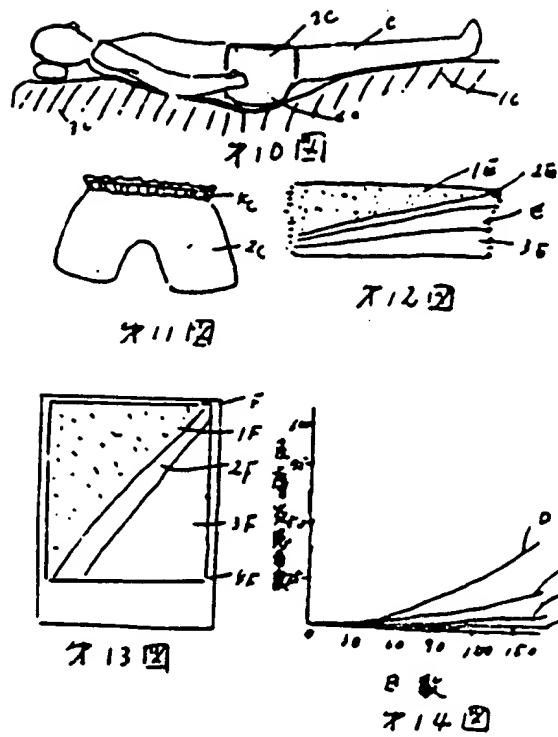
平野出類人  
田中友義

一定着色レーザー等には、アルカリ性漂白剤、酸性漂白剤、酸性漂白剤と併用して、セリシンと同様に人工被膜形成に役立つ。オキシ、オキソラン液とセリシン液と併用して、床づかの表面を保護被膜形成而促進せしめ被膜形成後は、変化する。抗菌性アリビド類と、不<sup>7</sup> C = エル環化樹脂と併用する事により、アルギニン酸ナトリウムカルベキシルの接着剤、安定化剤、又、強不<sup>7</sup> C<sub>12</sub> 使用する吸水剤、臭気を防ぐ、二酸化塩素過酸化物香料による、脱臭とガラム陰性菌や陽性菌のカビ菌、増殖を抑制、及ぼすの原因を抑制した。オクスホ酸と併用して、吸水剤によく、炭化ケイ素と抑元香油によく、利潤性と溶解性と抑元と、環化樹脂の、アリビド類の混合して、吸水性を高め、様にしておこなう。又、生糞を紙絹加工する際には、生糞を熱湯熱液でセリシン液とし、回復して、布吹又は、パニツヤラスル。煮布は、煮崩して、床づか予防、行3、壁紙を貼る時、接着素スニク等の使用回数を増加



## 手続補正書

平成3年3月1日



特許作成官 田中文毅 殿

1 事件の表示 平成2年特許願第306634号

2 発明の名称 床がけ防止・統節加工品

3 補正をする者

事件との関係 本人

住所(番地) 大阪府豊中市宝山町17番8号

氏名(名前) 田中文毅(印)

4 補正命令の日附 平成7年2月12日

5 補正の対象 明細書 図面

6 補正の内容 引数の通り

特許  
3.3.4  
4回

④明細書17頁2行「ア11図」とア12図は訂正して下さい。

⑤同上 17頁6行「ア13図」を「ア14図」に訂正して下さい。

⑥同上 21頁1行～17行「29角～39角」は「23角～29角」を「23角～29角」に訂正して下さい。

⑦同上 全部引数の如く訂正して下さい。

特許士顔人

田中文毅(印)

内 容 (平成2年特許願第306634号)  
 平成14年3月10日

①明細書13頁20行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

②同上 14頁21行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

③同上 15頁16行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

④同上 15頁17行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑤同上 15頁18行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑥同上 15頁19行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑦同上 15頁20行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑧同上 15頁21行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑨同上 16頁1行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑩同上 16頁2行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑪同上 16頁3行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑫同上 16頁4行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑬同上 16頁5行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑭同上 16頁6行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑮同上 16頁7行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑯同上 16頁8行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑰同上 16頁9行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑱同上 16頁10行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

⑲同上 16頁11行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

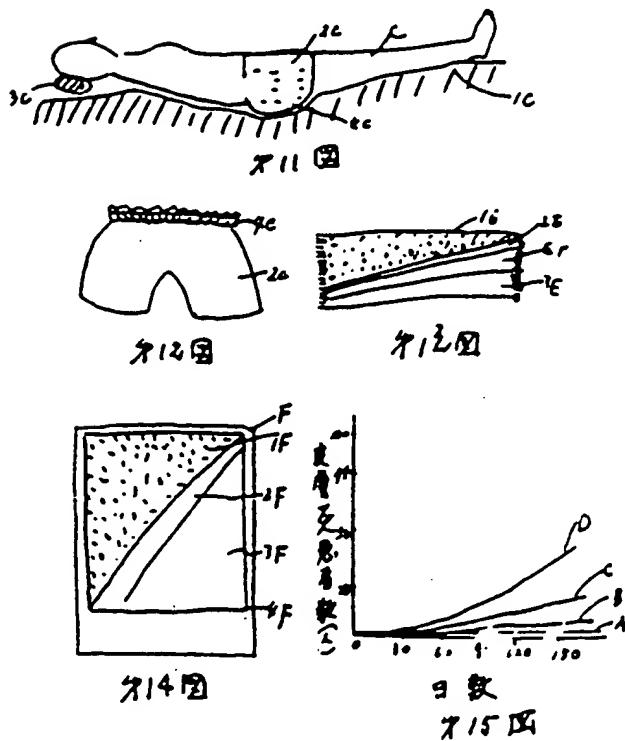
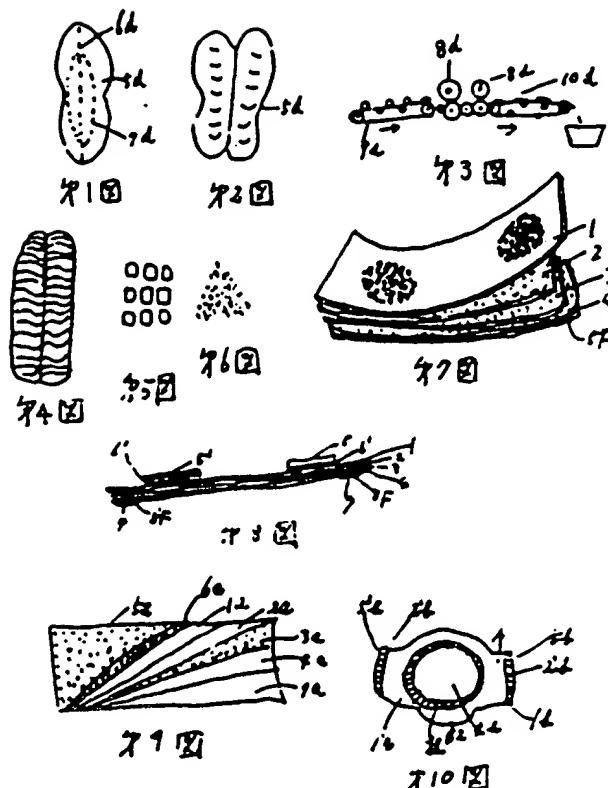
⑳同上 16頁12行「ア10図」を「ア11図」に訂正して下さい。

：剝出率を3%で、セラシン液で、セラシン、ナトリウム、オキシ液を布紙に噴霧する事によって、皮膚炎の予防に効果があり、蛋白分解酵素リボヌクレ酸、アミノ酸、蛋白質吸着速度を高めるので皮膚炎の回復に役立ち、産業上、衛生上有利な発明である。

## （4）図面の簡単な説明

第1図は生薬の正面図、第2図は生薬を分割した平面図、第3図は、反逆工程図、第4図は生薬、スレーブ状の反逆し平面図、正面図、第5図は生薬の細片の側面図、第6図は生薬粉の側面図、第7図は床バッキ予防積層、第8図は斜正面図、第9図はその側面図、第10図は生薬粉を敷布塗布セリムの積層布紙の正面図、第11図は紙オムンカバーの正面図、第12図は床バッキ位置を示す側面図、第13図はパンツ布の正面図、第14図は敷布の正面図、第15図は生薬（皮膚炎に罹った日数）。

特許出願人  
田中反曲



## 手続補正書

特許庁長官 各田 大輔 殿

- 事件の表示 平成2年1月25日特許出願第3066745
- 発明の名称 布されされた床上、紙布加工品
- 補正をする旨

事件との関係 特許出願人

住所(居所) 大阪府豊中市安山町19番8号

氏名(名前) 田中反曲

- 補正命令の日付 平成2年11月13日

- 補正の対象 特許請求

- 補正の内容 特許請求



## 内 容 (特願平成2-706143)

平成2年4月24日

① 明細書9頁 11行「アラミド繊維を加熱して溶解し、アルギン酸ソーダで凝固しては溶解脱膜して有効分離してから生糸等へ固定化したものと含む」

② 全上 13頁 2行「アラミド繊維を加熱して溶解し、アルギン酸ソーダで凝固しては溶解脱膜して有効分離してから生糸等へ固定化したものと含む」

③ 全上 14頁 20行「アラミド繊維を加熱して溶解し、アルギン酸ソーダで凝固しては溶解脱膜して有効分離してから生糸等へ固定化したものと含む」

④ 全上 15頁 19行「アラミド繊維を加熱して溶解し、アルギン酸ソーダで凝固しては溶解脱膜して有効分離してから生糸等へ固定化したものと含む」

特許出願人  
田中 反爾 露